

# 高尾山報

令和5年12月号

山々が色を変え美しく染まる





傳法大会に出仕された諸大徳の皆様

### 総本山智積院 傳法大会 当山貫首臨席

十一月十四日から十七日にかけて、真言宗智山派 総本山智積院において、布施淨慧化主御重任記念 慶祝傳法大会が執り行われました。

傳法大会では大本山成田山新勝寺の岸田照泰貫首が総裁、大本山川崎大師平間寺の藤田隆乘貫首と共に、当山貫首が副総裁を務められ、十四日に執り行われた傳法大会開白法要に出仕されました。

傳法大会とは、修行僧が真言宗の教義について問答を行うことで、教義の理解や解釈の度合いをはかるための法会です。

の里よ  
お大師さまは里人の苦しみを取り去るために神仏に祈りました。村の名前をお大師さまとした背景には、お大師さまへの感謝の心も込められているでしょう。西行法師も、会津陸奥の「道の口」(玄関口)で見た思いがけない塩作りの様子に心を揺さぶられたようです。

ところで「塩山」「塩池」という地名は全国に残されていますが、例えば三重県にある丹生神社付近(現在の多気郡多気町丹生)にも「塩井」という場所があるそうです。近くには「弘法湯」と呼ばれる塩化鈹泉もあり、弘法大師創建と伝わる塩垣神社の傍らには、

細頸の南の浦に  
さす塩は  
丹生の内外の御塩なりけり

というお大師さまの和歌



### たましん経営者研究会 当山貫首記念法話

十月十一日、立川市のパレスホテル立川において、たましん経営者研究会東大和支部の例会が行われ、佐藤貫首が講師を務められました。

例会で佐藤貫首は、「霊気満山 高尾山くなぜ人々はこの山に集うのか」と題した法話を行いました。

が刻まれた石碑もあるのか(『勢陽五鈴遺響』)。ちなみに和歌との関わりから見れば、先ほどの大塩村からほど近い会津の恵日寺(現在の耶麻郡磐梯町)にも、

布引と  
聞てきたれば  
更科の  
月輪瀉に  
着とおもへば  
龍石を  
まつりて置ぞ  
沢入に

後の世までの雨請のためという二首の空海歌が伝えられています(『新編会津風土記』)。こうした津々浦々に広がる弘法大師伝説と和歌との結びつきも注目されるものでしょう。会津の山塩は今でも産出し、人々に恵みをもたらしています。お大師さまの慈しみの思いは、現代を生きる私たちの心も温かくしてくれるのです。(栃木北部教区普濟寺)

## 法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(138)

色づいた葉が風に吹かれて散りゆくように、日めくりカレンダーの紙葉も残り少なくなりました。この一年の出来事を振り返りながら、さまざまな感情がわき上がった。この一年の出来事を振り返りながら、さまざまな感情がわき上がった。この一年の出来事を振り返りながら、さまざまな感情がわき上がった。

冬来ることは  
今ぞ知る  
臥し起きすれば  
明かしがたさに  
(大江千里『千里集』)  
二年に必ず冬が巡ってくると思いがたよ。身体を横にしても起こしてもなかなか明けにくい冬至の夜に)

この和歌は、中唐の詩

人白居易(七七二〜八四六)『白氏文集』「冬至夜」の「一年冬至夜偏へに長し」(二年で冬至の夜がこの上なく長い)という漢詩の一節を踏まえたものです。「秋の夜長」の人恋しさとは違った「冬の夜長」の厳しさが感じられます(『赤人集』に類歌あり)。

「冬至から翌の目ほど日が延びる」という言い回しがあるように、冬至を過ぎれば少しずつ昼の長さが増えてくるでしょう。ただ、冬の冷え込みはこれからは本番です。昔から冬至にはカボチャを食べて英気を養い、柚子湯につかって一休みと言われますが、先人の知恵を活用しながら元気に冬を乗り切っていききたいものです。さて、身体を温めるに

は温泉も効果的でしょう。弘法大師空海(七七四〜八三五)には、全国巡礼の折に、錫杖(杖)を地面や岩に突き立てて湧出させたという井戸や泉(弘法水)、温泉(弘法湯)などの伝承が全国各地に残されています。今月号では、そうした人々に恩恵をもたらしたという空海伝説について、お大師さまが詠まれた和歌も含めて紹介したいと思います。

昔(弘仁の頃(八一〇〜八二四))、諸国巡礼の旅をしていたお大師さまは、会津の大塩村(現在の福島県耶麻郡北塩原村大字大塩)に立ち寄りしました。そして、ある老齢の女性の家に一夜の宿を乞うと、快く迎え入れられました。

女性も精一杯手厚くもてなしましたが、この村では塩が手に入らないと言つて悲しんでいます。その姿を見たお大師さまは、何とか救いたいと考えて「七日(七

日間)の護摩(修法)を執り行います。すると、その効験によつて岩間から塩水が湧き出しました。それからというもの、塩を焼いて生計を営むものも出てきて、村人たちの苦しみもなくなつたそうです。

この地方には、後に歌僧西行(一一八〜一一九〇)も訪れて、二首の和歌を詠じたそうです。

海士もなく  
浦ならずして

陸奥の  
山賤の汲む  
大塩の里  
(海に潜る漁民でもなく海辺もないところで、陸奥の樵が汲む大塩の里よ)

浦遠き  
この山里に  
いつよりか  
絶えず今まで  
塩やみちのく  
(海からも遠いこの山里で、いつからか絶えず今まで製塩を行う陸奥



お大師様は日本各所で伝説を残されました



大震災では眼下一面が大津波に襲われた泉増寺高台にて震災犠牲者を供養する



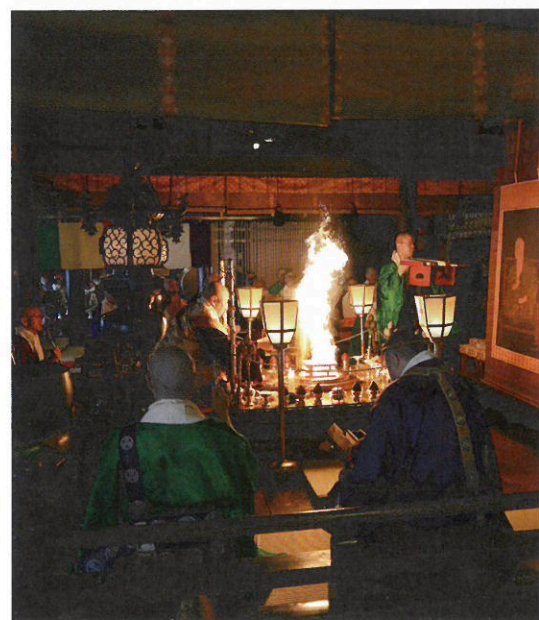
観音寺の「高尾の鐘」を打つ佐藤貫首

高尾山では東日本大震災発生から数年に渡って被災地への支援を募り、大勢の御信徒様よりお預かりした義援金を届けておりました。佐藤貫首も震災発生当初より、幾度となく支援の為に被災地へ赴いており、このたび貫首就任後初めて現地を訪問致しました。

佐藤貫首は十月二十九日から三十日にかけて岩手県を訪れ、陸前高田市の泉増寺と観音寺へ参拝致しました。二ヶ寺には高尾山が建立の際に協力させて頂いた半鐘があります。

泉増寺には「鳴瀬輝興」という銘の鐘があり、鳴瀬地区が以前のような煌めく輝きを取り戻し、賑やかに復興するようにという願いが込められております。また観音寺には先代の大山貫首が発願し、佐藤貫首が奉納致しました「高尾の鐘」があります。この鐘には、震災で亡くなられた方の冥福を祈ると共に、今を生きる人々のこの世とあの世、二世での幸福を願う思いが込められております。佐藤貫首は慰霊碑において自ら法螺の音を立て祈りを捧げ、震災で命を落とされた方々を懇ろに供養致しました。

## 復興が進む被災地へ 佐藤貫首岩手県を訪問



弘法大師のみ教えに感謝を捧げる

十一月二日、真言宗智山派・東京多摩教区（大山義順教区長）主催により、弘法大師ご誕生千二五十年を祝う慶賛法要が、当山貫首導師のもと菓王院大本堂にて厳修されました。

東京多摩教区は本年、総本山智積院や別格本山高幡山金剛寺において慶賛法要を行っており、その一環としてこのたび高尾山で執り行われました。

法要に際し、布教師養成所講師・教師講習所講師の吉野孝壽師による法話と、密厳流遍照講による御詠歌が奉詠され、今も尚、世の平穏と人々の幸福を願い続けておられる弘法大師の、み教えに思いを馳せ祈りを捧げるひと時となりました。

## 東京多摩教区主催 宗祖弘法大師ご誕生 千二百五十年記念慶賛法要厳修 十二月二日（水）

桑都八王子から104のストーリーを未来へつなげる

# 日本遺産フェスティバルin桑都・八王子

十一月四日（土）～五日（日）

十一月四・五日、日本遺産フェスティバルin桑都・八王子が開催されました。

日本遺産は、一定地域の有形無形文化財を一連のストーリーとしてまとめることで、文化庁より認定され、現在は百四件となっており、八王子市は構成文化財三十件を基に、「霊気満山 高尾山くぐり」のストーリーで認定を受けております。

開催初日、「J:COMホール八王子」で八王子車人形記念公演等が行われた他、日本遺産への取り組みを議題としたパネルディスカッションが行われ、八王子車人形の西川古柳家元と、八王子芸妓のゆき乃恵めぐみさんと共に、当山の佐藤貫首がパネリストとして出演致しました。

その後、「東京たま未来メッセ」正面入り口の「えきまえテラス」において、日本遺産フェスティバル開催の無事や来場者の安全を祈る柴燈大護摩供を厳修致しました。

会場では各地の日本遺産をPRする体験ブースが展示され、大勢の来場者で賑わいを見せておりました。



J:COMホール八王子で行われたパネルディスカッション



開催の無事を祈る柴燈大護摩供



来場者で賑わう東京たま未来メッセ



八王子駅構内を練行する「桑都のお練り」

# 高尾山年代記

## 歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

48

### 十八世秀神6 唐銅五重塔と偽菜事件

寛政九年（一七九七）に紀伊徳川家祈禱所の再興が成ったが、その頃の江戸での高尾山信仰にまつわる逸話を紹介しよう。

#### 幕府による規制

寛政一〇年六月、幕府から次のような触れが出された。

- 一、唐銅にて仏像や鐘・鳥居・燈籠の類を造り、町中や通りへ出し置いて勧進すること
  - は、先年も触れたように堅く禁止する
  - 一、銅像・石像・木像はすべて高さ三尺（約九一センチ）を限度とし、それ以外に鐘・鳥居・燈籠の類も大造りのものは一切禁止する
- この触れの背景には庶

民による寺社参詣の盛行がある。多額の布施が集まって資金ができ、さらに注目を集めて参詣を促すため、新規の仏像や寺鐘等の造立が活発になった結果、人々の浪費を抑えるべく幕府が規制をかけたというわけである。

実はこの時、高尾山へ奉納する唐銅製の五重塔の製作が進んでいた。その塔は北条氏康寄進の由来を持つ。倒壊した後、取り片付けられていた部材を用い、赤坂裏伝馬町の清八という人物が修復・奉納を願ったというものだった。清八は加持祈禱もおこなう民間宗教者で、多くの人々の崇拜を集めていたという。また、塔再建の大檀那として久留米藩主有馬頼

貴の名があがっている。高尾山と有馬の接点はこの塔の建立以外には見当たらず、清八の仲介が考えられる。この足袋屋清八という高尾山とも縁浅からぬ謎めいた人物については、あらためて別の機会に取り上げたい。

#### 最上部の九輪まで含め

ると高さ五メートルを越える造作物は、先の触れにある「大造の儀は一切停止」に抵触しそうだが、触れの末尾に続く「大造りの品誂えさうろうもの」「奉行所へ訴え出で、差図を受け申すべき」という一文は、事情によっては特例措置があり得ると解釈される。秀神は再び触れのあつた翌年七月、倒壊した残骸を用いて古来の寸法通り製作するので新規の造立にはあたら



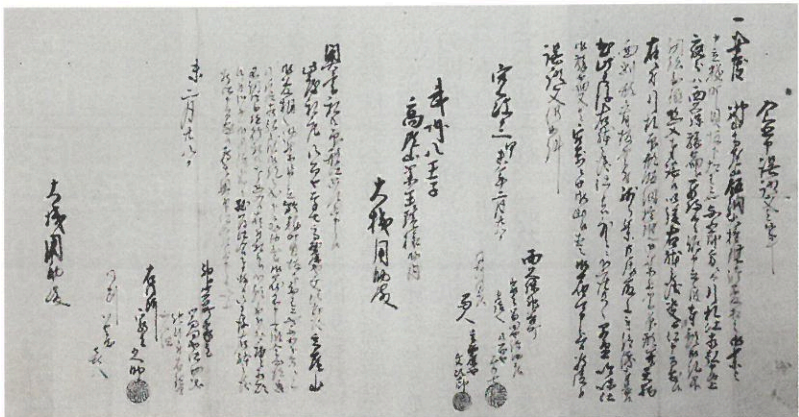
ありし日の唐銅五重塔

ず、すでに足かけ四ヶ年もの年月をかけて完成を間近に控えていることを理由に、寺社奉行に宛てて建立の許可を願ひ出、幸いにも受理された。

#### 五重塔をめぐる勸化騒動

ところが、願ひ出から一年以上経つても塔は完成を見ず、完成途中の部品を引き回し、人々から布施を受けたという嫌疑を糾される事態が発生してしまふ。これは先の触れの最初の条文にまとも

に世話人であった八蔵らは神田の鋳物師宅から赤坂辺りへ引き取る途次、心得違いから些少の銭貨を受け取っただけで、勸化ではないと弁明したが、上包みもせずに移送したというのでは通じるとはならない。鋳上がつたばかりの唐銅製品は金色に光り輝き、さぞかし目立つたものだろう。



高麗屋文次郎の詫証文（法政大学多摩図書館寄託）

ている。しかし、さらに一〇日の日延の願ひ出を重ねた上、翌年の早々、方道は世話人ともども寺社奉行所へ召喚され、清八他一人が「叱り」、他の二人が過料銭（罰金）三貫文を申し渡されることになる。葉王院側に対しては直接の関与はなかったということからか、

お咎めはなかった。

このことは、当時、寺社参詣の盛行に加え、江戸の市中で仏像や什物が祭礼の神輿や山車のように巡行し、集まった道の人々が利益を求めて布施を納めるような状況が、触れの効力も薄く堂々とまかり通っていたことを示しているだろう。

#### 飯縄大権現 偽菜事件

もう一つ興味を引くのが、寛政一二年二月付の詫証文にある事件である。高麗屋文次郎なる者が高尾山飯縄大権現の菜と称して、糶町貝坂下（千代田区平河町）のたばこ屋与五郎宅にてその偽物を売りさばいていたことが露見したという

のである。葉を作る版木や看板も押収されており、相当手広く売り広めるつもりだったらしい。「夜分は西久保（港区虎ノ門）旅宿へまかり帰り」とそれらしい偽りを述べていたというが、西久保あたりの寺町は地方の寺社の関係者が常駐するような場所として知られていたこともうかがえる。ちなみに、押収物に「天狗面判形」があるので、この頃には天狗の信仰が知られていたことがわかる。

同様のことをおこなう者があれば「旅宿」に届け出ると記されているが、後に作成される配札台帳（文化六年・一八〇九）の江戸での配札順は、確かに西久保辺りから始まっており、この頃すでに葉王院の関係者が定期的な逗留する場所が存在していたことになる。寛政三年の湯島出開帳に次いで、西久保への出張所の開設と、この間の江戸での教線拡張の意図を読み取ることができ

こうした江戸市中における御札守の類の授与は、おそらく飯縄大権現に限ったものではないだろう。この事件は、江戸から少なからず離れた場所にある寺社の御札守・護符の類もまた、出張ってきた宗教者らによって人々の間に日常的に流布していたことを示唆している。先の足袋屋清八も、そうした役割を担う人物だったのかもしれない。

#### 五重塔のその後

さて、件の唐銅製五重塔が高尾山上に据えられた際には、なお日時を要した。享和二年（一八一〇）になって台座を築く石が搬入されており、最終的に塔基の銘文に刻まれた年次はさらに二〇年を経た文化九年（一八二二）となつている。再建着手の寛政八年からは足かけ一七年の歳月が流れていた。

江戸、明治期の山内絵図を見ると、五重塔は仁王門に上がる石段の向

かつて右手側、現在の札所の位置に立っていたことがわかる。昭和の初めには現在の四天王門の脇にあり、関東大震災（一九二三）による倒壊を機に移設されたと推測される。しかし、昭和九年（一九三四）の室戸台風の折に再び倒壊したと、その後には再建されなかった。現在、塔基の石積みの上には木造りの名人竹本金太郎翁の記念碑が建っている。

註1 勧進に同じ。堂塔や仏像・什物の造立を目的に布施を募ること。

註2 史料中にある「菜」という呼び方は今日ではあまりなじみがないが、御札守・護符の類とみてよいだろう。

註3 とび職が共同作業をおこなう際にリズムを取る唄に由来する、火消しに携わる者に伝えられた儀礼の歌謡。

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。



花材：木瓜

今回は春に花を咲かせる木瓜を使った作品をご紹介します。

『桜は桜らしく、梅は梅らしく、桃は桃らしく生ける』事が肝要だと伝えられていますが、これらはすべて春に咲くバラ科の植物ですが、それぞれ違った特徴があるのでそれを活かして生けましょう、という意味です。木瓜も同じくバラ科の植物ですが、角張った枝分か

# いけばなの心④6

華道教授 佐藤 宗明

それが特徴となりますのでそれを生かした作品となります。

花形は逆勝手の生花正風体を陰方副という特別な生け方で整えています。

# 閉瀑式厳修

十月三十一日(火)

高尾山の南北の中腹には、蛇滝及び琵琶滝という滝行を行う水行道場があり、毎年十月三十一日には両道場において、一年間安全に修行できたことを感謝する、閉瀑式が行われております。



蛇滝(左)と琵琶滝(右)で行われた閉瀑式

# 高尾山もみじまつり 安全祈願祭厳修

十一月三日(金)

ようやく木々が色づき始めた十一月三日、高尾登山電鉄清滝駅前において、高尾山を訪れる方々の安全を祈る、「高尾山もみじまつり安全祈願祭」が開催されました。

もみじまつりを主催する八王子観光コンベンション協会をはじめ、高尾登山電鉄株式会社、高尾山商店会の関係者が参列し、ケーブルカー・清滝駅前において柴燈大護摩供を厳修し、もみじまつりの無事開催や皆様の諸願成就を参列の関係者一同と共に祈念されました。



来山者の安全を祈り柴燈大護摩供が厳修された



辻説法を行う佐藤貫首



栗原一君



佐藤沙ちゃんと佐藤玲ちゃん

# 七五三おめでとう

# 観音菩薩の宗教

72

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 如意輪観音（その10）

前号では尊格の視覚化・可視化の実際として仏像の起源や曼荼羅について論じた。そこで触れたのはブツダの可視化の代表である仏像であったが、今号では再び如意輪観音に戻ってその図像化について述べてみたい。

インドのナランダー出土の博仏や、ガンダラ出土の半跏思惟像が如意輪観音像と推定される説については、すでに述べた「観音菩薩の宗教」(65)。日本においては奈良時代に如意輪陀羅尼の信仰があり、読誦されていたことが実証されているが(同、66~68)、如意輪観音像が造られたとする確実な証拠はない。造像についてはいくつかの推測があるのみである。

如意輪陀羅尼信仰から如意輪観音菩薩自身への信仰に展開し、その図像化が起こったのは弘法大師空海による密教の導入と展開による。その最初期の作例とされるのが、原図曼荼羅と呼ばれる弘法大師請来の両界曼荼羅に基づく構図とされる『高雄曼荼羅』の蓮華部に描かれた六臂の如意輪観音坐像である。

『大日経』「具縁品」所説の蓮華部院には七尊のみが指示されるが、『高雄曼荼羅』などの原図曼荼羅には二十一尊が描かれている。尊格が増えた理由は、『大日経』「秘密曼荼羅品」所説の「財や七白吉祥、蘇悉地経」所説の寂留明菩薩などを加えて十八尊とし、

さらに二十一尊からなる金剛部とのバランスを取るため、三尊の女尊を加えたからとされる。こうした女尊の中にはインドでは観音の化身とは見做されていなかった尊格も含まれている(田中公明『両界曼荼羅の仏たち』四五頁)。原図などにおいて如意輪観音菩薩はそれら二十一尊の中央に描かれた。

石山寺の三代座主の淳祐(八九〇~九五三)はその著『石山七集』に両部曼荼羅に描かれる諸尊の規範を示すとともに、『高雄曼荼羅』などの原図曼荼羅の構図や像容を観察して言語化し、漢文で詳細に記述した。淳祐は菅原道真の孫で、宮中の内道場に奉仕したため淳祐内供と称された。石山寺は官寺として奈良中期に創建されたが、平安期には官の性格が薄れ学問寺としての役割が増した。その任を担ったのが石山寺中興の祖と讃えられた淳祐である(鷲尾

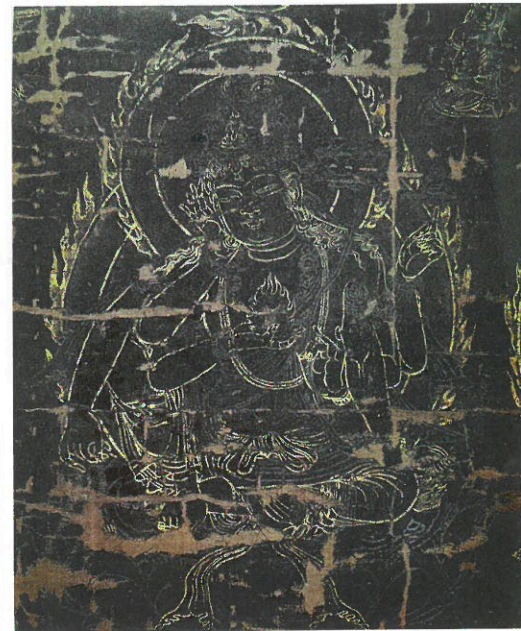
遍隆「監修」、綾村宏「編集」『石山寺の信仰と歴史』思文閣出版、二〇〇八年、四一頁)。淳祐は多くの著書を残したが、なかでも『石山七集』は曼荼羅研究に欠かせぬ書として高い価値を有している。この書は「胎蔵界七集」四巻と「金剛界七集」二巻からなり、両部曼荼羅に描かれる諸尊の漢名・サンスクリット名・密号・種子・三昧耶形・印相・形像の七種を解説したものである。それら七種を集めたため、『石山七集』と名付けられている。さらに各尊格の真言も説く。端的に言えば、曼荼羅内の諸尊の名称や持物、手の形、唱える真言や姿を示した曼荼羅の綱要書である。

仏教美術研究者の真鍋俊照は、伝存する曼荼羅の視覚的分析とともに、『石山七集』などの文献の解説を通じて、曼荼羅の歴史的・思想的背景を明らかにせんとした(『密教曼荼羅の研究』美術

出版社、一九七五年、四~八五頁)。以下、同書に因りつつ原図の蓮華部に描かれる如意輪観音菩薩について見てみよう。

如意輪観音の像容について「胎蔵界七集」は次のように述べる。原文の漢文を引用し、○内に金岡の書き下し文を示した後、解説を加える。  
「紫金色。六臂。右第一手持念珠。次手持宝。次手持蓮華。左第一手按山。次手持蓮華。次手持金輪。左足掌上立右足。坐赤蓮華。(紫金色にして六臂なり。右の第一手は思惟手、次の手には宝を持ち、次の手には念珠を持つ。左の第一手は山を按で、次の手には蓮華を持ち、次の手は金輪を捧ぐ。左足の掌上に右足を立て、赤き蓮華に坐す)」

「胎蔵界七集」は最初に如意輪の全体像について、身体の色は紫金色であると述べる。紫金色は紫磨黄金の略で閻浮檀金と



『高雄曼荼羅』中の如意輪観音像。神護寺蔵。八世紀。国宝。彩色はなく、紫の地に金と銀のみの線描による表現で、紫綾金銀泥絵という。真鍋前掲書、5頁より

はいかなる山かの記述はないが、「胎蔵界七集」が原図を解説した文に「左手は臂を申べて垂下し、指頭を左に向けて金山上に按ずる(左手は肘から下を下に垂らし、指の先端を左に向けて金山の上を押さえている)」とあるか

ら、金山、すなわち七金山と捉えられる。七金山は閻浮堤の北方に聳える須弥山の周囲にある七層の黄金の山である。須弥山はインド神話で宇宙の中央にある高山で、先の閻浮堤の紫金色と併せ、如意輪観音が神話的な巨軀を以て座していることが理解される。原図では「胎蔵界七集」が「其の金山は左膝の後にあり」とするように図の上では描かれておらず、山の姿は見えない。次の左の第二手は蓮華を持つとする。「胎蔵界七集」では原図における左の第二手について、「臂を屈して前の腋下より之を出し、掌を豎側し、頭指、中指を屈して開蓮を執」とあり、持っているのが開いた蓮華であることがわかる。左の第三手は金輪を掲げ持つているとする。金輪は須弥山や閻浮堤を浮かべている丸い世界の果てにある金色の輪という。日常語でいう金輪際は大地の果てを意味す

る仏教宇宙論から来た語である。「胎蔵界七集」では、如意輪菩薩が金輪を捧げているとするから、他の記述と併せ、その身体が宇宙規模で巨大であることを示している。

如意輪観音の像容の最後に述べられるのは両足の形態と坐し方についてである。「胎蔵界七集」にいう掌は足の裏と理解すべきで、上述の文を解釈すると、「左足の足の裏を上に向けて座り、その足の裏の上に右足を立てる」となる。こうした足の形を取りながら、赤い蓮華の上に坐するとされる。原図を読み取った「胎蔵界七集」では、「右膝を豎て、左踏の上を踏み、紅蓮華に坐す(或図は白蓮)」と記されている。踏とは胡坐をかくがごとき坐法で、足の裏は上を向くから上記の掌が足の裏であることと符合する。そこに立て膝をした右足を載せるのが「胎蔵界七集」の述べる如意輪観音の坐法である。

もいう。閻浮または閻浮堤はジャンブドゥヴィーパ(Jambudvīpa)の音写で、インド神話の宇宙論のうち人間の住む世界を指す。そこにはジャンブ(Jambu)という木が茂っており、その林を流れる川の底にある砂金が閻浮檀金、すなわち紫磨黄金と称される。その色は紫がかって光るとされ、最良の黄金であり、それが如意輪観音の身体の色と記述している。「胎蔵界七集」は原図の如意輪観音の身体の色と全体像について、「通身黄金色

にして冠に化仏あり、耳に環珠を承け(全身が黄金色で冠には本地の仏を示す化仏を付け、耳には耳環をつけ)ると述べており、色彩について僅かな差異が見られる。

それに次いで、密教系の如意輪観音像の典型となる六臂たることもここで規定されている。同書は以下の如く、六臂各々の手の形や持物を示している。

先ず、右の第一の手は思惟手とする。思惟手は国宝彫刻第一号で著名な太秦広隆寺の弥勒菩薩

像の右手の形が典型である。菩薩が深い慈悲心から衆生済度(しゅうじょうしゅうど)を思う時手を上げて掌を頬に向けてた形を取る。右の第二手は宝を持つとされるが、ここではそれがいかなる宝かの規定はない。「胎蔵界七集」の原図を解説した第二手についての文では、「次手は掌に青宝の光焰あるを持して心に当て」とある。「心」は心臓の上に当たる胸の位置である。右の第三手は念珠を持つとする。

次に左の第一手は山を按でるとする。ここではいかなる山かの記述はないが、「胎蔵界七集」が原図を解説した文に「左手は臂を申べて垂下し、指頭を左に向けて金山上に按ずる(左手は肘から下を下に垂らし、指の先端を左に向けて金山の上を押さえている)」とあるか

ら、金山、すなわち七金山と捉えられる。七金山は閻浮堤の北方に聳える須弥山の周囲にある七層の黄金の山である。須弥山はインド神話で宇宙の中央にある高山で、先の閻浮堤の紫金色と併せ、如意輪観音が神話的な巨軀を以て座していることが理解される。原図では「胎蔵界七集」が「其の金山は左膝の後にあり」とするように図の上では描かれておらず、山の姿は見えない。次の左の第二手は蓮華を持つとする。「胎蔵界七集」では原図における左の第二手について、「臂を屈して前の腋下より之を出し、掌を豎側し、頭指、中指を屈して開蓮を執」とあり、持っているのが開いた蓮華であることがわかる。左の第三手は金輪を掲げ持つているとする。金輪は須弥山や閻浮堤を浮かべている丸い世界の果てにある金色の輪という。日常語でいう金輪際は大地の果てを意味す

「おはなし散歩道」

秋始末と洗濯ふるまい

湯沢町 富樫 あい子

りんは稲刈りが見たくて、三連休に越後魚沼に住む曾祖父の幸助爺と、蔵の番人ネズミのチュウ助に会いに来た。

その日は親戚のおじさんが、幸助爺の田んぼの稲を刈るといふ。りんはチュウ助は農道からたわわに実った稲を大型農機具が刈り取る様子を見て、「早い、すごいー!」

りんは、息をのんだ。「昔は親戚中が集まってカマで刈ったものだ。今は、田んぼで刈り取りながらモミになる。家に運んで乾燥して翌日、米になる。夢の様な話だ」

チュウ助は考え深そう。「昔の人が見たら何と思う?」

りんは、チュウ助に聞いた。「翌日、米になるなんて考えられん。昔は雪が降ってから家で精米にし

たんだ」

農機具のエンジンが止まると、おじさんが降りてきた。

「りんちゃんか? お母さんと従弟の周だ」

「はじめまして、周おじさん! 話には聞いています」

「そうか、お母さんから電話があったから『洗濯ふるまい』明日やることにした。折角きたから幸助爺の家で食事会だ。なつ、チュウ助!」

「はい!」

おじさんは、ボトルのお茶を一気に飲み干して、また稲刈りをはじめた。

「洗濯ふるまいって何?」

りんは、チュウ助に聞いた。

「ああ、昔は十二月に入ると、どの家も『せつたくふるまい』をするのだ。親戚の人達から田植えや

稲刈りで働いてもらったお札に作物が採れた事を祝つてもてなすのだ」

「せつたくふるまい?」

初めて聞く言葉にりんは?

「魚沼では洗濯を『せつたく』という。洗濯はきれいに洗う事だから命の洗濯かな? 昔は汗を流して働いて、取入れが済むと、深い雪の中の暮らことになるのだ、ご苦労さん会だ。今は少なくなつたが」

「ふーん?」

「子供にとつても良く知らない親戚の人や年寄り、子どもや孫、従妹らに会えて大勢で遊ぶのが楽しいのだよ」

「知らない人に会うの?」

「まあな」

りんは、どきどきして来た。

翌朝、りんは早く目覚めた。周おじさんがチュウ助と車から、秋野菜を別棟の納屋に降していた。幸助爺もいた。

「周さんキクはどうした?」

「これから迎えに行きます」

チュウ助がりんに教えた。「キクはりんの祖父の妹で、爺の一人娘だ。山中という地名に嫁いだので『山中のばあ』とみんなは呼んでるのだ」

「ばあの家には大きな銀杏の木があつて『せつたくふるまい』に来る時は、袋一杯真っ白い銀杏を持ってくる。」

「爺は銀杏が好きなんだよ。子供は、銀杏は食べられない物でなく遊ぶものだと思つていい」

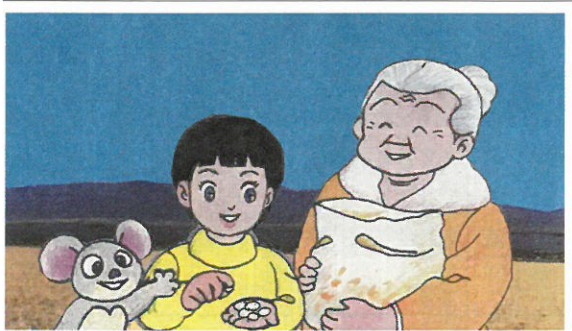
そこへ周おじさんの車と、母の従妹らしい女性が三人来た。

「山中のばあだ! 元気? 銀杏はあるの?」

「ある、あるよ」と言いながら車から降りて納屋に向かった。ばあは、爺に銀杏を渡すと女性達にも配つた。

「うれしい。昔を思い出すね。りんちゃんも教えてやるよ」

「おい、皆さんは漬物仕事か」



「これから迎えに行きます」という周おじさんの声に、「わかつてます。まだ応援隊がたくさん来るから」と銀杏を取り出し手のひらにのせ、弾みをつけて手の平を返し手の上に残つただけ自分の物とか、昔少女だったおばさんが「いちよっこ」は男女の区別もなく村の子供たちの楽しい遊びだったという。

『せつたくふるまい』って親戚の絆を深める良い行事だとりんは思った。

(子ども風土記)  
(挿し絵・小出 茂)

# 高尾山 季節散歩

和風月名 師走 「しわす」

十二月はお正月を迎えるにあたり何かと忙しい時期です。師走の語源として有力なものに、僧侶(師)がお経を唱えるため東西を走り回るという説があります。他にも年が果てる、「年果つ」から「しはす」、または四季が終わる月という意味で「四極」を語源とするなどの説があります。

今月の風物詩 忘年会

忘年会の起源は諸説ありますが、鎌倉時代後期には「としわすれ」という一晩中和歌を詠む連歌会がありました。また、この頃には庶民の中でもお酒を飲み、大騒ぎする習慣があつたそうです。現代のように忘年会と呼ばれるようになったのは明治時代で、夏目漱石の『吾輩は猫である』にもその名前が出てきます。

## 一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

### 二十三段 苦勞重ねて咲きたる花は美し清く

「苦勞」とは物事が上手く行くように、あれこれと気を使い行動することです。良い結果、たくさんの花が一斉に美しく咲き揃うためには、時に困難に出会ってしまうことでしょう。苦勞を耐え抜いて、花のある人生を送りましょう。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙

「さくらさくら」

八王子市 石井 雅子

薬王院インスタグラム紹介

薬王院では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。これからも様々な写真や動画を沢山アップしてまいりますので是非ともフォローをお願い致します。

下記のQRコードか URL から 検索ができます。

TAKAOSAN\_YAKUOIN

instagram.com/takaosan\_yakuoin/

浅見家子育観音法要厳修

十一月三日(金)

# 御護摩修行のおすすめ

皆様の諸願成就を祈願する

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。

御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯縄大権現」とお唱え下さい。



## 苗木奉納

古来より高尾山の御信徒は、自分のお願いが成就した時に感謝とお礼の意味を込めて、苗木を奉納する習慣があります。

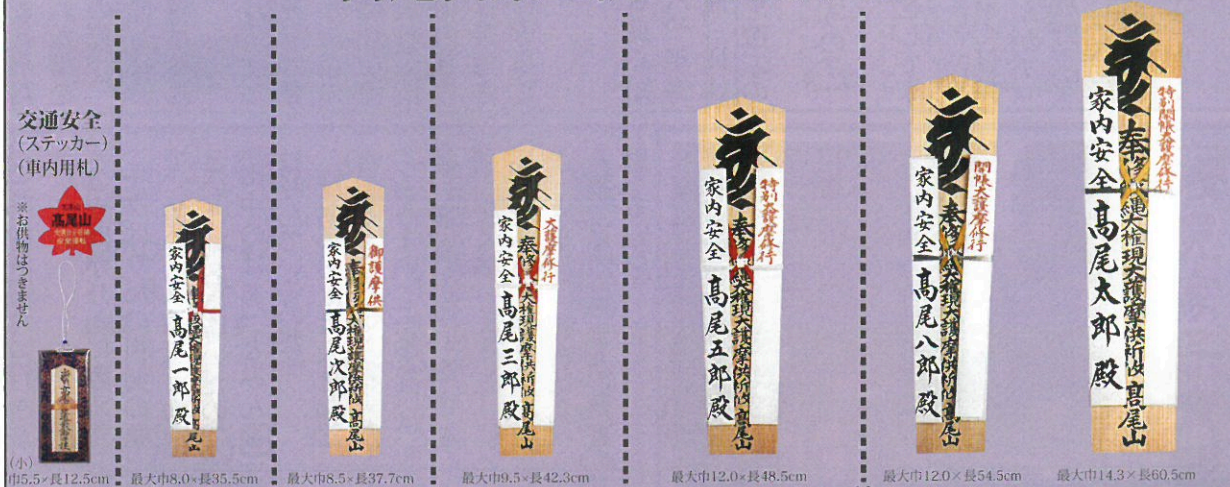
今日でも、お杉苗木奉納は続いており、参道の大杉原には、杉苗木奉納者の芳名板が、板塀のように並んでおります。

高尾山では寺法において「殺生禁断」を第一義に、むやみに草木を切ること厳しく戒めてきました。

私達は信仰心と共に大自然を守り、また大自然から守られつつ共存共栄し、今日の景観を造りあげてきたということ、忘れてはならないと思います。

尚、毎年十二月十日までに、一万円以上を御奉納頂いた方のお名前を、翌年より掲示させて頂いております。

## 高尾山薬王院の御護摩札



交通安全 (ステッカー) (車内用札)	家内安全 高尾一郎殿	家内安全 高尾次郎殿	家内安全 高尾三郎殿	家内安全 高尾五郎殿	家内安全 高尾八郎殿	特別開帳大護摩
市5.5×長12.5cm	最大巾8.0×長35.5cm	最大巾8.5×長37.7cm	最大巾9.5×長42.3cm	最大巾12.0×長48.5cm	最大巾14.3×長60.5cm	100,000円以上
(大) 10,000円 (中) 5,000円 (小) 3,000円	お護摩 3,000円以上	お護摩 5,000円以上	お護摩 10,000円以上	特別大護摩 30,000円以上	開帳大護摩 50,000円以上	

- 家内安全(家)
  - 商業繁昌(商)
  - 事業繁栄(事)
  - 交通安全(車内用札)
  - 交通安全(不交)
  - 身の上安全(身)
  - 災難消除(災)
  - 厄除(厄)
  - 身体健全(体)
  - 当病平癒(病)
  - 開運(開)
  - 良縁成就(縁)
  - 安産成就(安)
  - 入学成就(入)
  - 心願成就(心)
  - 御札(札)
  - 奉納杉苗木(杉)
- お護摩の願事  
お願ひ事は一体一願意とします。  
併願(二願意)は一万円より受け賜ります。  
但し、五千円で家内安全と商売繁昌のみ併願とさせていただきます。  
お護摩札には年令・生年月日等は入りません。

## 新たな年の安寧を祈る

# 正月限定 新春特別祈禱札

令和六年も正月期間(一月一日～一月三十一日)限定で「令和新春特別祈禱札」を授与致します。

近年は自然災害や疫病の流行等、様々な災厄が頻発する時代であります。しかしながら、年が改まり心機一転する正月を迎えるにあたり、種々の災いが少ない、明るい一年となるようにと、特に御祈願申し上げる次第であります。御信徒の皆様方におかれましては、この機会に是非御来山を頂き、新たな年の安寧を共に祈り下さいますようお願いいたします。

ご祈禱料は一体三万円となります。

願意(お願ひ事)は「除災開運」のみとなります。

御来山当日でのお申込みも可能ですが、正月期間の御護摩受付所は混雑が予想されるため、事前にお申し込みも頂けます。また、御信徒様各位の御都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に宅配でのお取り扱ひもいたしておりますので、ご希望の方は下段の記事をご参照下さい。



## 御護摩札及び御守等

### 郵送・宅配申込方法について

当山では、年間を通して遠方の御信徒様や、高尾山へ直接御参拝することが難しい方々の為に、御護摩札をはじめ各種御守等を、郵送及び宅配にてお受けしております。

お正月御護摩札のお申し込みにつきまして同様に、お手紙やFAX、または「高尾山公式ホームページ」内の「御護摩札 郵送申し込み」からインターネットにて承っておりますので、ぜひご利用頂きますようお願い申し上げます。

また、各種御守りをはじめ、天狗団扇や熊手等のお正月限定の縁起物の郵送をご希望の際には、お電話にてお問合せ下さい。

お問い合わせ先の電話番号、FAX番号につきましては左記の通りとなりますが、ホームページのアドレス及びQRコードにつきましては、二十ページ下段に記載されておりますので、そちらをご参照下さい。

TEL 〇四一六六六一一五  
FAX 〇四一六六四一一九

- 1 御護摩札のみ
- 2 御護摩札及び御守
- 3 御守のみ

郵送御守係まで

お電話やFAXにてご連絡を頂く際には、次のように御護摩係か郵送御守係までお願いいたします。



令和六年 甲辰(きのえたつ)  
高尾山節分会追儺式参加申込の御案内



二月三日(土)

歳男・歳女 修行時間

第一回	午前七時半
第二回	午前九時
第三回	午前十時半
第四回	正午
第五回	午後一時半
第六回	午後二時半

尚、修行時間の三十分前、もしくは、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。もし時間に間に合わない場合は次回の修行時間にお入り頂きますので、何卒、ご了承下さいませ。

高尾山恒例の節分会(豆まき式)を、二月三日、身上安全、事業繁栄、諸縁吉祥、除災開運等の祈願をこめて開催致します。

御信徒の皆様には、歳男・歳女に参加されますよう御案内申し上げます。

冥加料(祈祷料)三万円

お問い合わせ 高尾山節分会係  
電話〇四二(六六一)一一一五

高尾山火渡り祭

(令和六年三月十日 日曜日)

柴燈大護摩供御壇木特別志納御案内

當山では毎年三月第二日曜日に春を招く恒例行事として、祈祷殿火渡り本尊ご寶前にて、高尾山修験道による火渡り祭が盛大に執り行われます。

火渡り祭とは、當山貫首大導師のもと、全国各地の靈山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈祷法要であります。

この浄行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて供される、御本尊・飯繩大権現様の功德を顕す御壇木のご志納を一本一万円にて募っております。

ご信徒の皆様、並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信託を賜りますよう、謹んでお願いを申し上げます。

尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院参道に二年間掲示致します。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒部までお問い合わせ下さい。

祈大願成就 身体健全

高尾 登



電話 〇四二六六一二二一五  
FAX 〇四二六六四二九九  
大本山 高尾山薬王院 信徒部

高尾山の昆虫

ナミアゲハ

もう一部の種を除いて姿を見ることができないこの時期に、壁に止まっている蝶を見つけた。



これはアゲハチョウ(並揚羽)で、しかもまったく破損のない綺麗な個体です。考えるに来年羽化する筈の個体が、異常気象につられてしまい間違って羽化してしまった可能性があります。

本種はアゲハチョウ科の代表的な蝶で、高尾山は勿論のこと一番身近な蝶だと思えます。

日本の国蝶はオオムラサキですが、ナミアゲハも日本本土に広く分布していて個体数が多いこと、その存在や生態が広く知られていて、理科の教科書にも掲載されるようなポピュラーな種であること、見た目が大型且つ優美であり日本的な印象を与えることの三つの条件に当てはまる本種は有力な国蝶の候補として挙がっていました。

よく似た種にキアゲハがいて、本種の方が黒い部分が多く見分けは簡単です。

この新成虫らしき個体は元気に飛んで行きましたが、アゲハの仲間(蛹の形態で越冬しますので成虫での越冬は難しく、猛暑が続いたために体内時計が狂ってしまった)、季節外れの羽化となり気の毒な思いがします。

(文松島 孝 撮影上村 雅昭)

冬遊日向山靈山寺宝城坊

弱冠 初崇拜

月参 教導承

錢不動神佛

誠意神佛應

厚木市 荒井 一雄

歳の暮

師の恩恵  
礼納め

冬、日向山靈山寺宝城坊に遊ぶ

二十歳にて運転免許を取り高野山真言宗の名刹・日向薬師様に初参拝。仏縁が月参りを促し高徳なる先住

老師より『薬師経』を戴き  
ご教導を承く。...

師曰く『お金では、くら札束を積んでも残念ながら神仏は動いてくれません。貴方の誠意こそ神仏が動いて下さるのです』と...

迎光祭のお知らせ

令和六年元旦の迎光祭につきましては、昨年に引き続き、薬王院の境内地に祈願所を設けて実施致します。

迎光祭とは初詣にお越しになった大勢の方と初日の出を迎える行事です。僧侶の読経や山伏の法螺により、参列者の無病息災など二年間の安全を祈願して、新年を祝います。

大晦日から元旦にかけて終夜でケーブルカーの運行が行われる予定です。晴れていれば、横浜方面から昇るご来光を拝することが出来ます。

八王子市	杉並区	北野区	港北区	太田市	松本市	太田市	前橋市	邑楽郡	伊勢崎市	大里郡	川口市	相模原市	川崎市	東大和市	〃	〃	八王子市	立川市	国分寺市	江東区	港区	足立区	日野市	鹿角市	府中市	八王子市	北区
萩原	三浦	宝鏡	鹿山	後藤	寺澤	市川	小林	大鷲	山田	深田	松島	野津	塚瀬	中川	近藤	金子	高尾	熊添	新井	小宮	内山	中山	太田	島山	川村	佐藤	鈴木
清次	みよ子	院	院	和男	和男	貴也	幸子	幸男	隆	節子	功樹	英夫	朋子	彰久	淳	喜美子	圭子	伊佐雄	一雄	秀雄	恵司	雄三	笑子	英喜	光	あい子	

八王子市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
田中	棚橋	佐藤	定本	山口	中村	齊藤	井上	八光	佐々木	小池	荻原	金子	中村	庄司	小齋	溝口	福島	石井	比留間	粕谷	粕谷	比留間	比留間	比留間	比留間	比留間	
武	和明	安久	京子	晴子	宣晴	宣實	操	好二	武夫	一雄	滋	孝子	和子	祥子	治雄	元行	功	榮子	榮子	亀夫	亀夫	亀夫	亀夫	亀夫	亀夫	亀夫	

八王子市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
齋藤	土方	梅澤	荒川	昭巳	和子	文子	琴枝	エツ子	静子	正基	順和	ひろみ	武	一神	剛吉	正義	恭俊	晴夫	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	
太	良二	庄一	昭巳	和子	文子	琴枝	エツ子	静子	正基	順和	ひろみ	武	一神	剛吉	正義	恭俊	晴夫	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	陸子	

横濱市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
白石	小黒	土井	阿部	増田	堀	石坂	木村	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	
京子	美智子	俊彦	ヨシ子	晴也	タカ子	幸子	和夫	益雄	榮治	信子	健次	幸子	慎一	敏司	春江	伸	光一郎	勝子	ヒデ子	清一	たみ子	勝	栄住	桜佳	仁一	晶	

高尾山健康登山者一同	鎌倉市	桐生市	加須市	八王子市	前橋市	新座市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
梅澤	坂田	野本	野本	菱山	関	羽島	小池	永井	増山	梅沢	兼井	泉田	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	前原	
庄一	新藏	愛子	道雄	榮一	粧麗	まり子	寛子	史子	敬治	敦	啓作	隆子	文子	榮八郎	藤子	瑞穂	隆一	妙子	利男	幸二	早苗	寿昭	光生	育男	謙一	修二	



大般若経を守護する十六善神の図

### 神徳報謝百味飲食供 御志納のおすすめ

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物（百味）を捧げて、大般若経六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時（於大本堂）  
御志納金 一口 三千円以上

### 厄年を過ぎた 御信徒の皆様へ

六十才の厄年を過ぎたなら 一年・一年を

七十才を過ぎたなら 暑さ、寒さを

八十才を過ぎたなら 春夏秋冬を

九十才を過ぎたなら 一日・一日を

気を付けられ 日々を大切に 圓滿にお暮し下さい

当山では皆様の 御志納を 福壽圓滿の 御護摩を お申し受け致しております。

### いろは天狗の落し文 35

徹して生きる 人生大事 手抜き、適当 せず生きる

「手を抜く」とは必要な行程を省き、大雑把で中途半端に終わらせることを意味します。大事なことを達成するために何事も真面目に、一生懸命に取り組むように、心掛けましょう。

### 高尾山麓 自動車祈禱殿

人車一体交通安全祈禱

正月御祈禱時間  
元日 午前0時より午後四時まで  
二日・三日 午前八時より午後四時まで  
四日〜七日 午前八時半より午後四時まで

交通事故は偶然生ずるものでなく、多くの場合には、運転者並びに歩行者の心構え一つで防止できるものです。心に安らぎを得て、安定した気持ちで運転して頂く事が大事と考えております。

年に一度は、高尾山の山伏による人車一体の「おはらい」を受けることをおすすめいたします。

複数台をお申し込みの場合には、事前にFAXにも受け付けております。

電話：〇四二一六六一一〇一八  
FAX：〇四二一六六一二二一三五



初詣 心のふるさと 祈りのお山 高尾山

一月行事日程

一日

迎光祭

元旦特別開帳大護摩供

初甲子

(高尾山大黒天祭)

二日～七日

聖天秘供(聖天堂)

六日、十八日、三十日

弁天秘供

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十七日

蛇滝清龍様御縁日

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十八日

琵琶滝不動尊御縁日

奥の院開扉供養

(十時奥之院)

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

★お知らせ

一月中の月例写経会は開催致しません。

【お願い】

お正月三ヶ日は、高尾山麓の国道二十号線は混雑が予想されます。高尾山麓の駐車可能な場所が限られておりますので、マイカーでのご参拝はご遠慮ください。

一新春大護摩奉修特別時間一

	元日 (月)	2・3日 (火)・(水)	4・5・21日 (木)・(金)・(日)	6・8・13・14日 (土)・(月)・(土)・(日)	28日 (日)	9日以降平日 20日・27日土曜
午	0:00					
	1:30					
	3:00					
	4:30					
	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00
前	7:30	7:00				
	8:00			8:00		
	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:30
	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	
午後	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
	0:00	0:00	0:00	0:00	0:30	0:30
	1:00	1:00	1:00	1:00		
	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00
	3:00	3:00	3:30	3:30	3:30	3:30
	4:30	4:00				

★正月期間中は御護摩受付所や大本堂周辺は、大変混雑致します。お昼前後の御護摩修行には大勢の御信徒様が集中することが予想されますので、混雑回避のために、時間を調整しての御来山をお勧めいたします。

◆お知らせ

正月から節分までの期間中は、繁忙期につき、蛇滝及び琵琶滝での滝行の指導は行いません。ただし、通常通り個人での滝行を行うことは出来ます。

また、同期間中は大師堂での御回向や、不動院での御詠歌、月例写経会も実施されませんことを御了承願います。



高尾山薬王院ホームページ  
<https://www.takaosan.or.jp>

下記のQRコードから高尾山薬王院のホームページにアクセスできます

発行所  
 東京都八王子市高尾町2177  
 大本山  
 高尾山薬王院  
 郵便番号 193-8686  
 電話(042)-661-1115(代)  
 FAX(042)-664-1199  
 発行人 犬山秀康  
 編集人 菅井倫浩  
 印刷 ヒラツカ印刷社  
 毎月1回1日発行  
 1部50円